

# 世界が 懸念 していること

2025年1月

# 世界が懸念していること

イプソスの「世界が懸念していること」調査では、世界29か国で現在最も重要な社会問題や政治問題は何であると考えているのかを調査し、最新のスコアとその背景を10年分のデータをもとに探ります。

このグローバルサマリーレポートでは、世界中で最も懸念されていることを、自国が正しい方向/間違った方向のどちらに進んでいるかという人々の意見と共にご紹介しています。

調査結果のさらなる分析は、  
[www.ipsos.com](http://www.ipsos.com)  
でもご覧いただけます。

詳細については、  
[Teodros.Gebrekal@ipsos.com](mailto:Teodros.Gebrekal@ipsos.com)  
までお問い合わせください。

=Report\_1175

# 主な調査結果

## 01. 韓国の腐敗と悲観主義

先月の政治的混乱の後、「国は正しい方向に向かっている」と答えた人の割合は8年ぶりの低水準の14%となり、汚職に対する懸念は半数(50%)に上っています。

## 02. 米国のインフレ

インフレが自国の主要問題の一つであると答えた米国国民の割合は7ポイント減少して39%となっています。これは2022年1月以来の最低値です。

## 03. スウェーデン国民の犯罪に対する懸念

スウェーデンでは、犯罪と暴力に対する懸念が8年半近くも国内トップとなっており、今月は65%が不安を表明しています。

## 04. 北米の医療

カナダでは医療を回答する割合が6ポイント上昇して44%(インフレと並んで1位)となり、米国では8ポイント上昇して31%となっています。これは、2020年5月の32%以来、米国の最高スコアです。

## 05. イスラエルは税金への懸念が増加

イスラエルの税金に対する懸念は、それを挙げた人の割合が11ポイント増加して34%となり、現在2番目に大きな問題となっています。現在、テロリズム(48%)に次いでおり、国家間の軍事的な対立(31%)を上回っています。

## 06. 英国国民は移民を心配している

移民管理は4ポイント上昇し、現在では英国にとって2番目に大きな懸念事項(医療に次ぐ)となっており、35%が問題だと回答しています。

# 世界が懸念していること 2025年1月

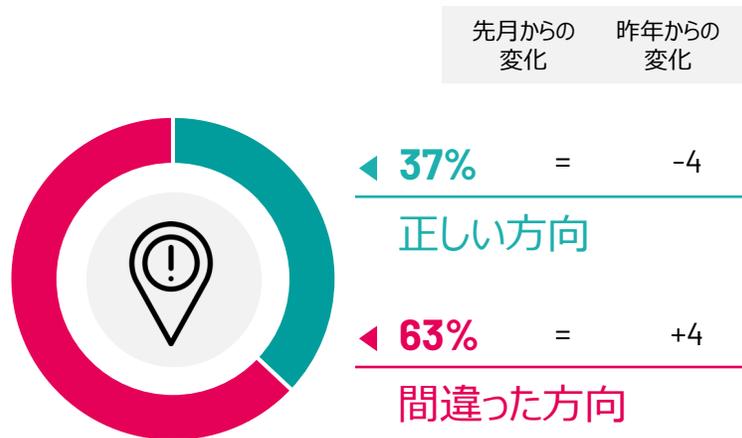
## 最も懸念していることトップ5

Q: 次の中から、あなたの国において最も懸念される事項を3つ選択してください。

	先月からの 変化	昨年からの 変化
インフレ	=	-4
犯罪と暴力	=	+2
貧困と社会的不平等	=	=
失業率と雇用	+1	+1
汚職、経済的・政治的スキャンダル	=	+1

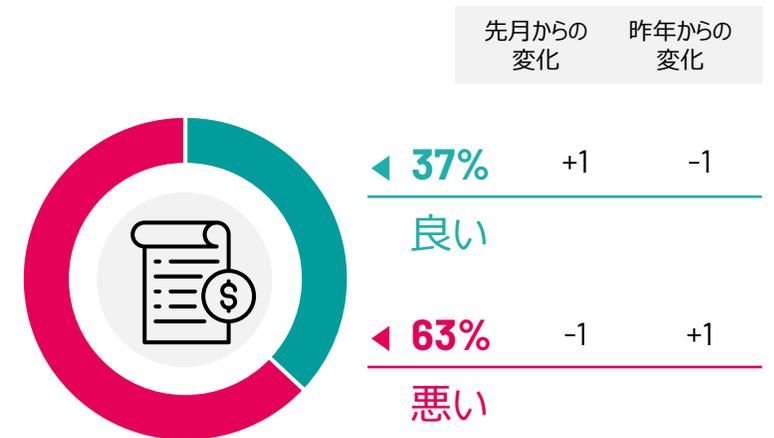
## 国の状況

Q: 全般的に見て、この国は正しい方向へ向かっていると思いますか、それとも間違った方向に向かっていると思いますか。



## 経済の状況

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



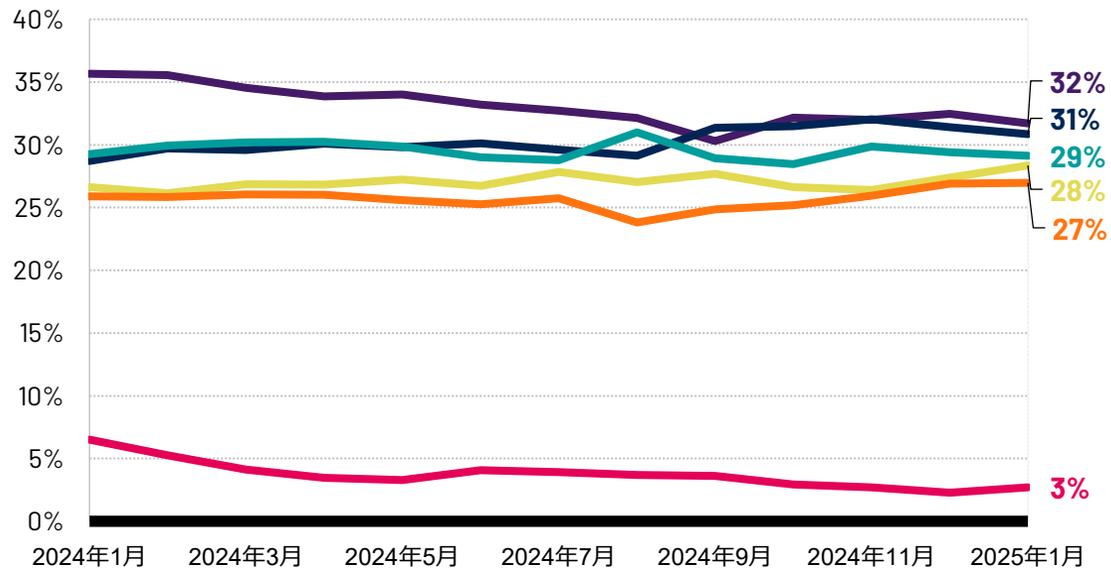
対象: 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。フィルター: 国: 世界 | 現在のウェーブ: 2025年1月

# 世界が懸念していること 12か月のトレンド

## 最も懸念していることトップ5

Q: 次の中から、あなたの国において最も懸念される事項を3つ選択してください。



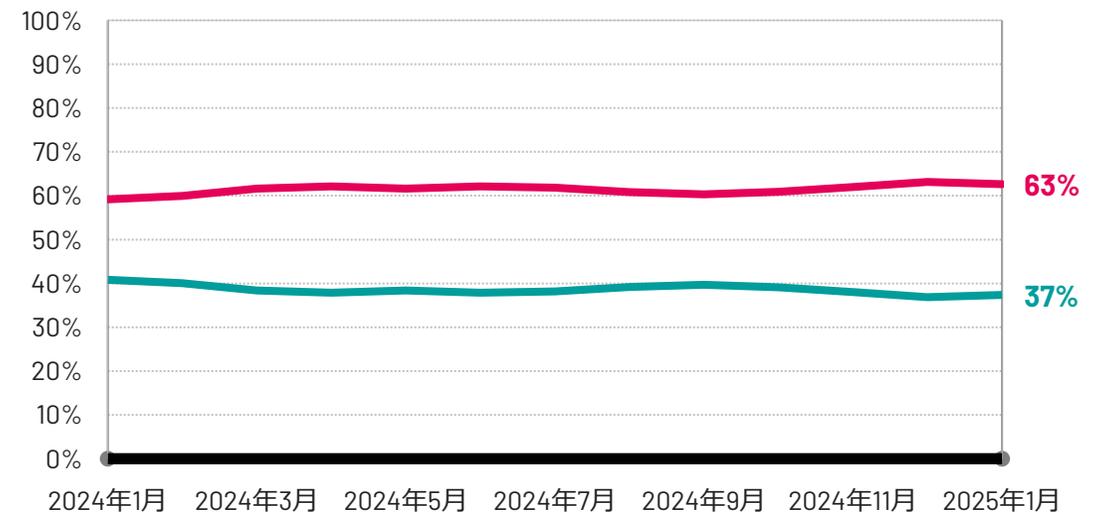
インフレ      犯罪      不平等      失業      汚職      **コロナウイルス (Covid-19)**

対象: 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。

出典: Ipsosグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。フィルター: 国: 世界 | 現在のウェーブ: 2025年1月

## 国の状況

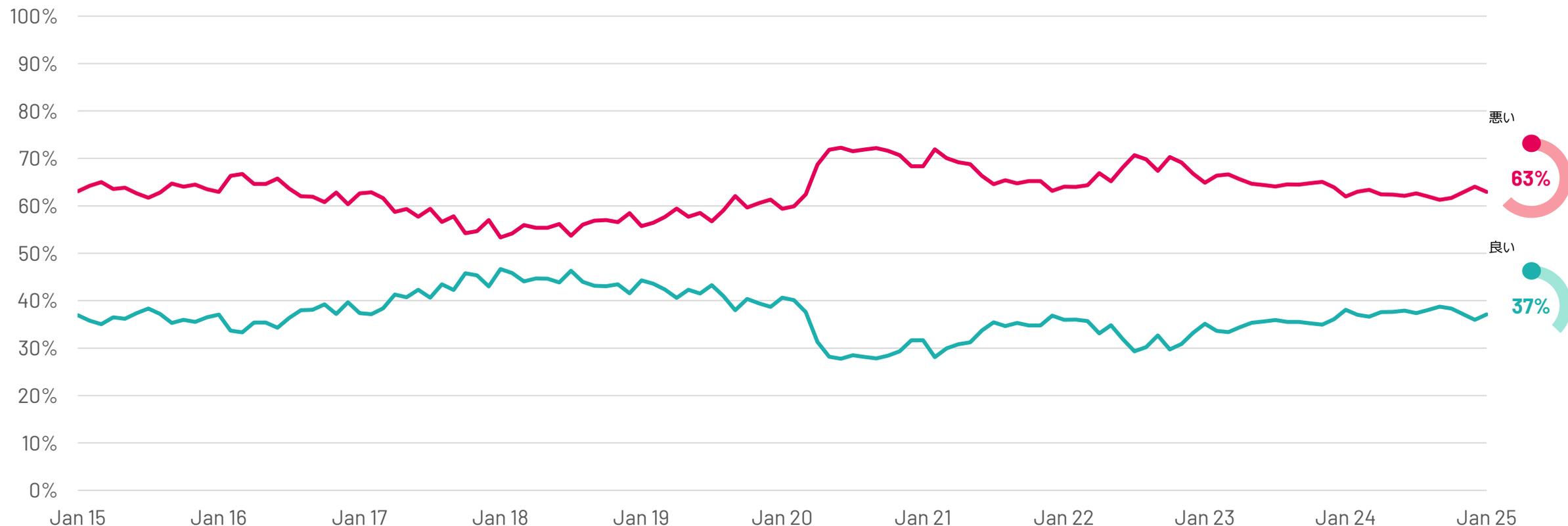
Q: 全般的に見て、この国は正しい方向へ向かっていると思いますか、それとも間違った方向に向かっていていると思いますか。



正しい方向      間違った方向

# 世界経済の現状

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。  
(「とても良い」または「やや良い」と「とても悪い」または「やや悪い」の割合)



対象: 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。フィルター: 国: 世界 | 現在のウェーブ: 2025年1月

# 各国が進む方向

全対象国

# 正しい方向/ 間違った方向 モニター

対象: 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。

出典: Ipsosグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

今月、「自国は正しい方向に向かっている」と答えた人の割合は29か国全体では変化はありません。しかし、楽観的な見方は弱く、これらの国々の平均は昨年同時期よりも4ポイント低くなっています。

2024年12月初旬、韓国は一日間の戒厳令が敷かれ、政治的混乱に陥っています。今月、楽観的な見通しを示す韓国国民の数は3ポイント減少して14%となり、これは同国で過去8年間に記録された最低水準です。2017年1月は12%でした。

一方、最近合意された停戦直前に現地調査が行われ、イスラエルの正しい方向スコアは4ポイント上昇して

3分の1(34%)となっています。これは、同じく34%だった2024年3月以来の高水準です。

# 14%

韓国では、「国は正しい方向に向かっている」と回答しているのは14%で、8年ぶりの低水準です。

# 正しい方向/ 間違った方向 モニター

対象: 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。

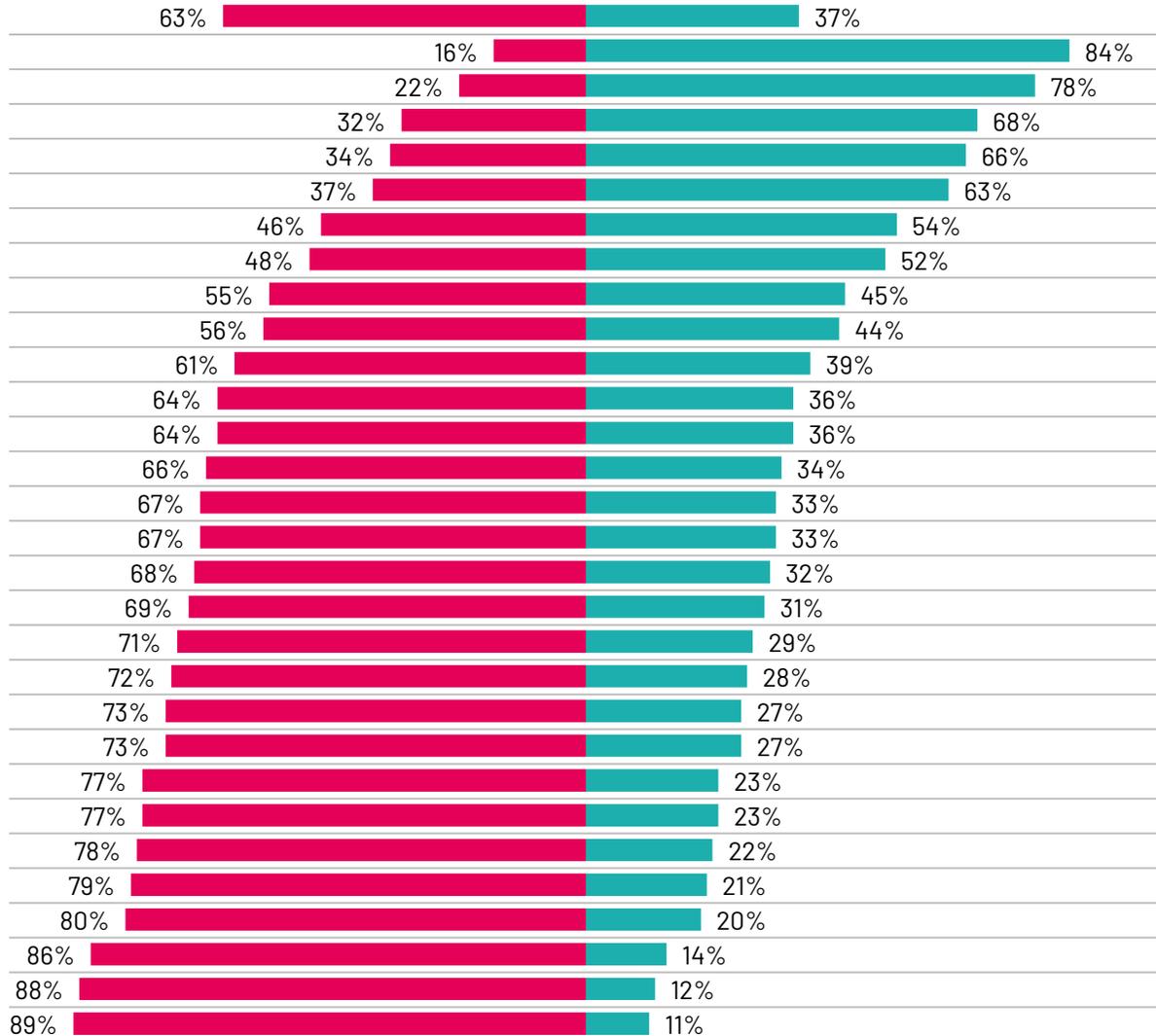
出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年1月

## 国

世界
シンガポール
インドネシア
インド
マレーシア
アルゼンチン
タイ
メキシコ
オーストラリア
ポーランド
ブラジル
コロンビア
スペイン
イスラエル
米国
南アフリカ
英国
チリ
ベルギー
イタリア
スウェーデン
日本
ハンガリー
カナダ
オランダ
ドイツ
トルコ
韓国
フランス
ペルー

Q:この国は正しい方向へ向かっていると思いますか、それとも間違った方向に向かっていると思いますか。(2025年1月)



正しい方向

間違った方向

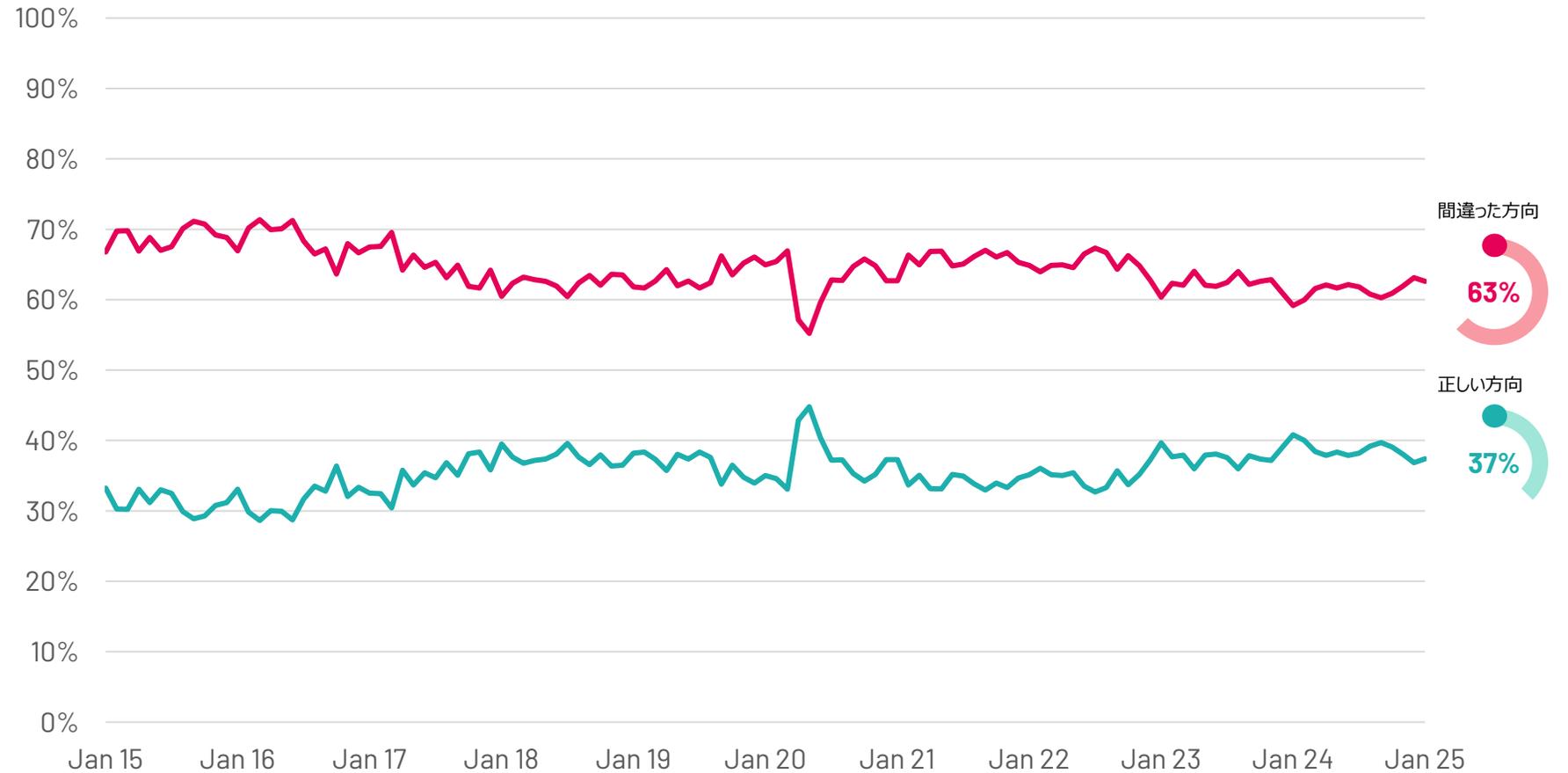
# 世界の正しい/ 間違った方向

世界各国の平均スコア

対象: 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: この国は正しい方向に向かっていらっしゃいますか、それとも間違った方向に進んでいると思いますか?



# 世界が懸念していることは？

ランキング上位の懸念事項

# 世界の懸念事項: 全リスト

**対象:** 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。

**出典:** イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

**フィルター:** 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年1月

今月、29か国においてインフレは依然として最大の懸念事項と見られており、32%が懸念を表明しています。12月からは変化はないものの、昨年の同時期より4ポイント低く、犯罪と暴力よりわずかに1ポイント高いだけです。

リストのさらに下の方では、医療、税金、移民管理がいずれもわずかに増加しています(現在、それぞれ6位、7位、8位)。

一方、気候変動に対する懸念(現在9位)はわずかに減少しています。同様に、国家間の軍事的な対立は11位から12位に下がり、11人中1人の割合(9%)に減少しました。

# 32%

29か国で32%がインフレを懸念しており、昨年1月より4ポイント低下しています。

# 世界の懸念事項: 全リスト

対象: 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。

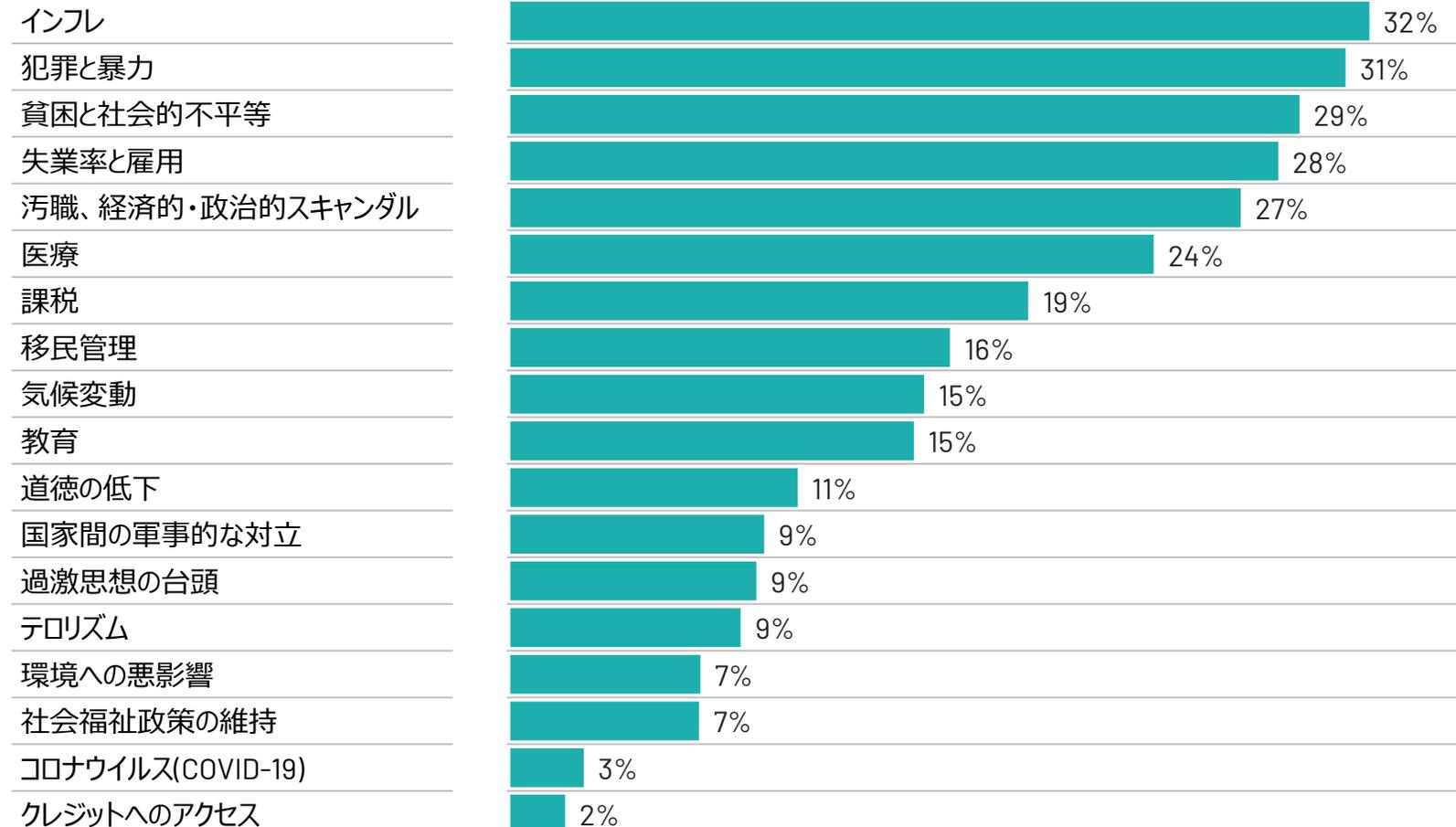
出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年1月

Q: 次の中から、あなたの国において最も懸念される事項を3つ選択してください。

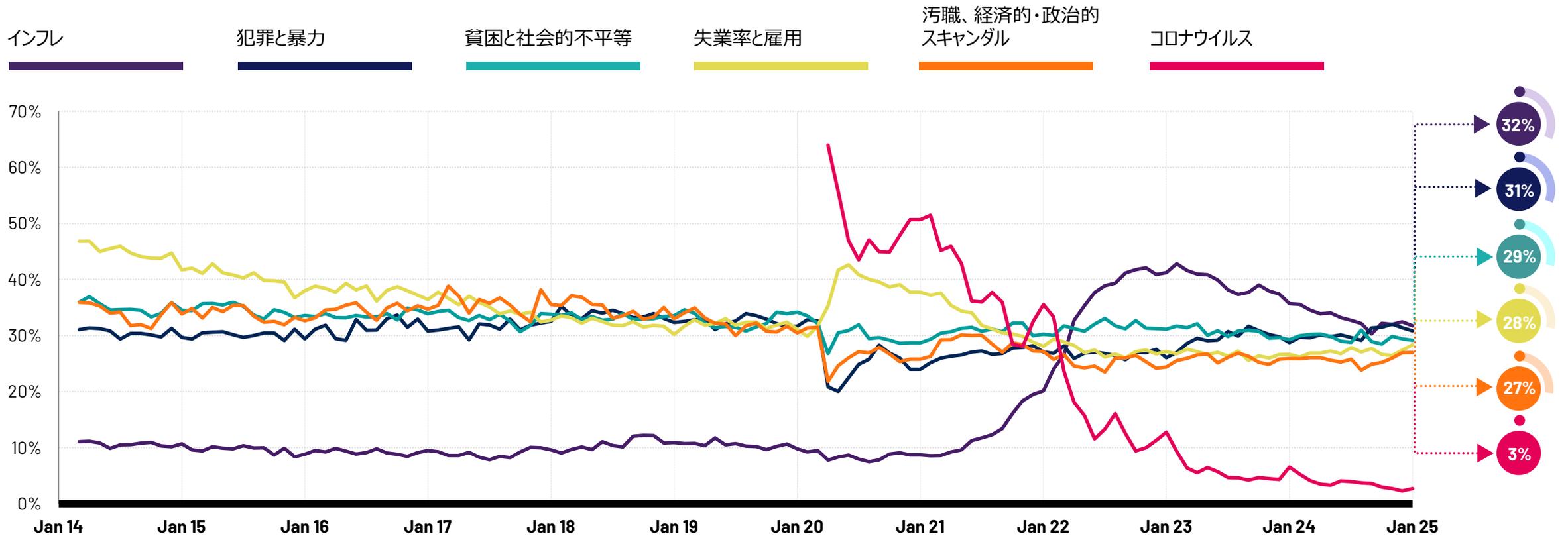
## 懸念事項

## 2025年1月の回答割合 (世界各国平均)



# 世界の懸念: 長期トレンド

Q: 次の中から、あなたの国において最も懸念される事項を3つ選択してください。世界各国平均



対象: 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。

出典: Ipsosグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。フィルター: 国: 世界 | 現在のウェーブ: 2025年1月

# 1. インフレ

29か国全体で生活費に対する懸念を表明する人の割合は32%のままです。これは先月と同じですが、2024年1月より4ポイント低くなっています。

トルコではインフレを心配していると答えた人の割合が今月7ポイント増加し、ほぼ5分の3(58%)に達しています。これは高い水準であるにもかかわらず、トルコでは2021年11月以降、コスト上昇が最大の問題となっており、この国としては珍しいことではありません。

対照的に、米国では懸念しているとの回答が7ポイント減少し、5分の2(39%)となっています。これは2022

年1月(27%)以来の最低スコアです。2024年2月も39%を記録しました。

## インフレが最大の懸念事項となっている国:

- トルコ(58%)
- シンガポール(56%)
- ポーランド(46%)
- カナダ(44%; 医療と同率)
- オーストラリア(44%)
- インド(44%)
- 米国(39%)
- フランス(34%)

# 32%

が、**インフレ**は自国が直面している重要な問題の一つだと答えています。

対象: 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。

出典: Ipsosグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

# 1. インフレ

**対象:** 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。

**出典:** イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

**フィルター:** 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年1月

国	インフレを懸念していると回答した割合	先月からの変化	12か月の変化
世界	32%	=	-4
トルコ	58%	+7	+2
シンガポール	56%	-4	+5
ポーランド	46%	+3	-6
カナダ	44%	-5	-10
オーストラリア	44%	-5	-5
インド	44%	-1	+1
ハンガリー	43%	+5	+3
米国	39%	-7	-2
アルゼンチン	35%	-3	-33
メキシコ	35%	-3	+4
英国	34%	+4	+1
フランス	34%	-3	-6
韓国	33%	-3	-8
ドイツ	32%	+1	-6
マレーシア	30%	+2	-3
日本	30%	=	+4
ブラジル	28%	+2	+4
タイ	26%	-2	+1
スペイン	26%	-1	-10
ベルギー	24%	-3	=
イタリア	24%	-1	-4
チリ	24%	-5	-13
コロンビア	22%	-2	-9
イスラエル	20%	-3	+1
南アフリカ	20%	+1	-4
オランダ	19%	+1	-4
インドネシア	18%	+3	+1
ペルー	16%	=	-10
スウェーデン	16%	=	-10

## 2. 犯罪と暴力

29か国中、犯罪と暴力については10人中3人(31%)が回答する状況が続いています。昨年の同時期と比較すると、懸念はわずかに高まっています。

犯罪について懸念を表明するスウェーデン国民の割合は今月8ポイント上昇し、5分の3以上(65%)に達しています。これは今でも国民の最大の懸念事項であり、8年半近く(101か月)も続いています。さらに、2024年1月と比較すると、不安のレベルは12ポイント高くなっています。ただし、このレベルはスウェーデンでは異例ではなく、2024年9月にも同スコアが記録されています。

コロンビアでは反対の傾向が見られ、

懸念は8ポイント低下して36%となっていますが、これは同国で通常見られる水準と同程度です。

### 犯罪と暴力が最大の懸念事項となっている国:

- チリ(66%)
- スウェーデン(65%)
- ペルー(61%)
- メキシコ(56%)
- ブラジル(38%)

# 31%

が、**犯罪と暴力**は自国が直面している重要な問題の一つだと答えています。

対象: 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

## 2. 犯罪と暴力

対象: 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年1月

国	犯罪と暴力を懸念していると回答した割合	先月からの変化	12か月の変化
世界	31%	=	+2
チリ	66%	+2	+1
スウェーデン	65%	+8	+12
ペルー	61%	-4	-1
メキシコ	56%	-3	+1
南アフリカ	51%	-3	-3
アルゼンチン	39%	-5	=
ブラジル	38%	-3	-3
コロンビア	36%	-8	-2
オーストラリア	33%	-1	+10
フランス	32%	=	+1
マレーシア	29%	+2	+6
ドイツ	29%	+4	+12
日本	29%	+1	+13
トルコ	28%	-1	+5
イスラエル	27%	-1	+5
オランダ	27%	+5	+9
イタリア	26%	-6	+4
ベルギー	26%	=	+2
タイ	26%	+2	=
米国	24%	-4	-7
インド	24%	-1	+2
英国	22%	-4	+2
カナダ	20%	-2	+5
インドネシア	19%	=	-3
スペイン	16%	-2	-1
シンガポール	13%	+3	+4
韓国	12%	-2	-11
ハンガリー	11%	+3	+1
ポーランド	7%	=	-1

### 3. 貧困と社会的 不平等

対象: 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。

出典: Ipsosグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

29か国全体で、不平等を回答する割合は29%で、昨年1月と同じレベルです。

南アフリカでは、不平等について回答する人の数が8ポイント減少して28%となっています。12か月前と比較すると、3ポイント低下しています。しかし、全体像を見ると、これは2022年12月の27%以来、3年間で最低のスコアです。

今月、ベルギーでも不平等に対する懸念は減少しています。4分の1 (25%)が問題だと答えており、これは2024年12月と1月から6ポイント減少しています。

#### 貧困と社会的不平等が最大の懸念事項となっている国:

- 日本 (34%; 課税と同率)

# 29%

が、**貧困と社会的不平等**は自国が直面している重要な問題の一つだと答えています。

### 3. 貧困と社会的 不平等

**対象:** 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。  
**出典:** イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。  
**フィルター:** 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年1月

国	貧困と社会的不平等を懸念していると回答した割合	先月からの 変化	12か月の 変化
世界	29%	=	=
アルゼンチン	44%	+1	+4
インドネシア	42%	+3	-2
ハンガリー	39%	-2	-2
タイ	38%	-2	-4
トルコ	36%	+1	+1
ブラジル	36%	-1	-2
ペルー	35%	+6	+8
コロンビア	35%	+2	+4
日本	34%	=	=
ドイツ	31%	-2	=
オーストラリア	30%	+3	+2
イタリア	29%	+3	=
フランス	28%	-1	+2
メキシコ	28%	+5	+1
南アフリカ	28%	-8	-3
マレーシア	28%	+1	+1
オランダ	28%	-3	-7
イスラエル	26%	+2	+8
チリ	25%	-3	+1
カナダ	25%	-1	-2
スペイン	25%	-1	-3
韓国	25%	+2	-4
ベルギー	25%	-6	-6
英国	24%	-4	-3
スウェーデン	23%	+3	=
ポーランド	23%	=	+3
インド	21%	-1	+1
米国	19%	+2	=
シンガポール	14%	-7	-1

## 4.失業率と雇用

失業への懸念は今月29か国でわずかに上昇し、昨年1月からもわずかに上昇しています。今月、失業を最重要課題とする国の数は2か国の純増となっています。コロンビア、スペイン、イタリアがいずれも1位となり、韓国はリストから外れました。

しかし、この傾向はスペインでは通常のことです。スペインでは先月を除き、2023年5月以来失業が最も大きな懸念事項となっています。今月、懸念は7ポイント上昇し、38%となっています。

イタリアでは、2024年4月に医療が優先され、一時ランクダウンしましたが、現在、再びこれが主要課題とな

っています。今月は4ポイント上昇し、現在37%が不安を抱えています(医療より1ポイント高い)。

### 失業が最大の懸念事項となっている国:

- 南アフリカ(69%)
- イタリア(37%)
- アルゼンチン(46%)
- コロンビア(41%)
- スペイン(38%)

# 28%

が、**失業率と雇用**は自国が直面している重要な問題の一つだと答えています。

対象: 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。

出典: Ipsosグローバルアドバイザー調査。グローバルコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

# 4.失業率と雇用

**対象:** 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。  
**出典:** イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。  
**フィルター:** 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年1月

国	失業を懸念していると回答した割合	先月からの変化	12か月の変化
世界	28%	+1	+1
南アフリカ	69%	+4	+6
インドネシア	49%	+1	+6
アルゼンチン	46%	+2	+8
インド	43%	+4	+5
コロンビア	41%	-1	=
シンガポール	40%	-5	+1
スペイン	38%	+7	-1
イタリア	37%	+4	-1
ペルー	36%	+2	+1
韓国	35%	-8	-5
チリ	33%	-1	+3
マレーシア	33%	+6	+5
タイ	31%	-5	+3
メキシコ	31%	+2	-5
トルコ	28%	+6	+7
ブラジル	24%	+4	-1
スウェーデン	24%	+3	+6
オーストラリア	22%	=	+3
ポーランド	19%	+2	+6
カナダ	19%	-2	-2
ベルギー	16%	-3	+1
米国	16%	+3	=
日本	16%	-1	-2
英国	16%	+1	+2
ハンガリー	15%	=	-1
フランス	14%	-2	+4
ドイツ	13%	-1	+3
イスラエル	12%	+3	-2
オランダ	8%	+4	+3



## 5. 汚職、経済的・政治的スキャンダル

29か国全体で汚職が問題であると回答した人は27%にとどまっています。

韓国では先月、政治的混乱が起これ、懸念を表明する人が国内で大幅に増加しています。今年1月、不安は7ポイント増加して半数(50%)となり、大きな問題の一つとなっています。これは昨年1月より16ポイント高く、2019年12月に52%を記録して以来5年間で最高水準です。

同様に、政府に対する不支持が続いていることから、汚職を回答するペルー国民の数は7ポイント増加し、半数以上(54%)となっています。これは2023年5月の54%以来の高水準です。

対象: 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。

出典: Ipsosグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

# 27%

が、**汚職、経済的・政治的スキャンダル**は自国が直面している重要な問題の一つだと答えています。

### 汚職が最大の懸念事項となっている国:

- インドネシア(56%)
- 韓国(50%)
- マレーシア(47%)
- タイ(43%)

# 5. 汚職、経済的・政治的スキャンダル

対象: 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年1月

国	汚職、経済的・政治的スキャンダルを懸念していると回答した割合	先月からの変化	12か月の変化
世界	27%	=	+1
インドネシア	56%	-3	-2
ペルー	54%	+7	+1
韓国	50%	+7	+16
マレーシア	47%	-2	+4
ハンガリー	47%	-3	+3
南アフリカ	46%	+1	-4
タイ	43%	-2	=
コロンビア	38%	=	+5
スペイン	33%	-1	+13
チリ	32%	-1	+4
ブラジル	30%	+3	+4
イスラエル	30%	-6	-1
ポーランド	29%	=	-3
米国	27%	+4	+5
インド	26%	=	+6
アルゼンチン	25%	-1	+1
メキシコ	24%	-3	=
トルコ	22%	=	-3
日本	22%	+1	-15
カナダ	14%	+4	+4
イタリア	12%	+2	+2
シンガポール	11%	+4	+4
スウェーデン	11%	+3	+1
ベルギー	11%	-4	-8
英国	10%	=	-5
オーストラリア	10%	-3	-1
フランス	9%	+1	+2
ドイツ	7%	-2	-2
オランダ	6%	-5	-1

## 6. 医療

対象: 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。

出典: Ipsosグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

29か国で医療が徐々にリストの上位に上がってきています。今月は若干増加しており、昨年1月と比べると3ポイント上昇しています。

今月、北米では懸念が高まっています。カナダでは、医療を挙げた人が6ポイント上昇して44%となり、現在ではインフレと並んでカナダの主な問題となっています。しかし、このスコアは昨年の同時期よりも5ポイント低いので、珍しいことではありません。

比較すると、米国では医療について回答する人が8ポイント上昇して31%となっています。これは1年前より9ポイント高いだけでなく、2020年5月の32%以来の最高水準でもあり

ます。

### 医療が最大の懸念事項となっている国:

- ハンガリー (61%)
- カナダ (44%; インフレと同率)
- 英国 (42%)
- オランダ (31%)

# 24%

が、**医療**は自国が直面している重要な問題の一つだと答えています。

# 6. 医療

**対象:** 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。  
**出典:** イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。  
**フィルター:** 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年1月

国	医療を懸念していると回答した割合	先月からの変化	12か月の変化
世界	24%	+1	+3
ハンガリー	61%	-3	+10
カナダ	44%	+6	-5
英国	42%	+2	-1
ブラジル	37%	-1	+3
イタリア	36%	-5	+8
シンガポール	35%	+5	+10
ポーランド	35%	-8	-1
米国	31%	+8	+9
オランダ	31%	+6	-5
スペイン	31%	+4	+1
オーストラリア	31%	+2	-1
フランス	29%	+3	+7
コロンビア	24%	+7	+6
スウェーデン	23%	-4	+2
ベルギー	21%	+1	+7
メキシコ	19%	=	+3
ドイツ	18%	-2	=
アルゼンチン	17%	+4	+7
南アフリカ	16%	+1	+4
チリ	15%	-3	+1
インド	14%	+2	+3
韓国	14%	-3	+8
タイ	13%	+5	=
ペルー	13%	-1	-2
日本	11%	+1	=
マレーシア	10%	-1	+2
インドネシア	9%	+4	+1
トルコ	5%	-2	+1
イスラエル	5%	-1	+2

## 7. 課税

29か国全体で税金を回答した割合は前回よりわずかに増加し、2024年1月より3ポイント高くなっています。

イスラエルは今月、懸念が最も大きく増加し、11ポイント増加して3分の1(34%)が問題として挙げています。これは昨年の同時期より11ポイント高く、2015年2月に調査に追加されて以来、イスラエルで最高値となっています。税金は現在、テロリズム(48%)に次いで国家間の軍事的な対立(31%)を上回り、イスラエルにとって2番目に大きな懸念事項となっています。

税金を挙げる日本国民も3ポイント上昇し、34%となっています。今や、不平等と同率で日本にとっての最大

の懸念事項となっています。

### 課税が最大の懸念事項となっている国:

- ベルギー (35%)
- 日本 (34%; 不平等と同率)

# 19%

が、**課税**は自国が直面している重要な問題の一つだと答えています。

対象: 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

# 7. 課税

対象: 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年1月

国	課税を懸念していると回答した割合	先月からの変化	12か月の変化
世界	19%	+1	+3
ベルギー	35%	+4	+5
日本	34%	+3	-2
イスラエル	34%	+11	+11
ブラジル	28%	+6	+5
カナダ	27%	-1	-1
イタリア	27%	-4	+1
インドネシア	25%	+8	+20
インド	22%	=	+5
フランス	22%	-3	+6
アルゼンチン	21%	+1	+2
トルコ	20%	=	+6
スペイン	20%	-1	+3
シンガポール	20%	=	-2
ポーランド	19%	-3	-3
英国	19%	-3	+4
コロンビア	17%	+1	-2
米国	17%	-1	+3
マレーシア	16%	-1	+5
メキシコ	16%	+2	+3
オーストラリア	15%	=	-1
ドイツ	14%	+2	-2
オランダ	13%	+3	+1
スウェーデン	13%	+3	=
韓国	13%	=	-3
タイ	12%	+1	+4
ハンガリー	11%	+1	+3
南アフリカ	10%	-2	+3
チリ	9%	=	+1
ペルー	6%	=	+4

## 8. 移民管理

29か国全体で移民管理を懸念事項として選んだ割合は先月から変わらず、1年前と比べてもわずかに増加している程度です。

英国国民は移民についてより懸念するようになり、移民問題に懸念を抱く人の数は今月4ポイント上昇して35%に達しています。これは昨年1月より6ポイント高い数字です。これは過去8年間で2番目に高いスコアでもあり、2024年9月のスコアが最高(39%)、2017年1月が次点(37%)となっています。

これは現在、インフレと医療に次いで、税金と並んでカナダで2番目に大きな懸念事項となっています。5ポイント上昇して27%が挙げており、これは昨年の同時期より10ポイント高い結果と

なっています。

### 移民管理が最大の懸念事項となっている国:

- ドイツ(35%)

# 16%

が、**移民管理**は自国が直面している重要な問題の一つだと答えています。

対象: 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

# 8. 移民管理

対象: 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年1月

国	移民管理を懸念していると回答した割合	先月からの変化	12か月の変化
世界	16%	=	+1
チリ	45%	+6	+11
ドイツ	35%	=	-3
英国	35%	+4	+6
カナダ	27%	+5	+10
米国	27%	-3	=
ベルギー	26%	+2	+2
トルコ	25%	-13	-4
オランダ	25%	-5	-14
フランス	23%	=	-2
スペイン	22%	=	+7
オーストラリア	20%	+3	+4
スウェーデン	19%	+4	+3
イタリア	17%	-1	=
南アフリカ	16%	+1	+5
ポーランド	14%	+2	-2
日本	12%	=	+5
シンガポール	12%	-2	+5
ペルー	11%	-5	-6
マレーシア	11%	=	-3
コロンビア	10%	+2	+1
メキシコ	8%	-2	-3
タイ	7%	=	+3
ハンガリー	7%	+2	-1
インド	5%	+1	+2
イスラエル	4%	=	=
アルゼンチン	3%	=	+1
インドネシア	2%	=	-4
韓国	2%	+1	+2
ブラジル	0%	-1	-2

## 9. 気候変動

29か国全体で、気候変動について懸念を表明する人はわずかに減少し、15%となっています。

気候変動が問題であると答えた人の増加が最も大きかったのはポーランドです。5ポイント上昇し、現在17%が問題だと考えています。これも昨年1月より5ポイント高い数字です。

気候変動が英国が直面している主要な課題の一つであると答えた英国国民の数はわずかに増加し、4分の1(24%)となっています。わずかな上昇ではあるものの、これは2023年10月の24%以来の最高水準です。

対象: 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。

出典: Ipsosグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

気候変動が最大の懸念事項となっている国:

なし

# 15%

が、**気候変動**は自国が直面している重要な問題の一つだと答えています。

# 9. 気候変動

**対象:** 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。  
**出典:** イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。  
**フィルター:** 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年1月

国	気候変動を懸念していると回答した割合	先月からの変化	12か月の変化
世界	15%	-1	-1
シンガポール	29%	+4	+6
日本	26%	=	+3
英国	24%	+2	+1
オランダ	24%	-2	-4
オーストラリア	24%	+1	-4
イタリア	22%	=	-2
ドイツ	22%	+1	-6
フランス	21%	-2	-4
スペイン	19%	-3	+1
カナダ	18%	-4	-3
ベルギー	18%	-1	-2
タイ	18%	+3	+4
ポーランド	17%	+5	+5
スウェーデン	17%	-4	+2
米国	17%	=	-2
インドネシア	15%	-6	-5
ブラジル	15%	-1	-2
メキシコ	14%	-5	=
韓国	14%	-4	-6
南アフリカ	12%	+1	-1
コロンビア	12%	-2	+3
マレーシア	10%	-4	+2
インド	9%	-2	-2
トルコ	8%	+2	-1
アルゼンチン	5%	+1	+2
チリ	5%	+2	-5
ハンガリー	5%	+1	=
ペルー	4%	-4	-4
イスラエル	2%	=	+1

## 17. コロナウイルス (COVID-19)

29か国で新型コロナウイルス感染症を問題として挙げる人はわずかに3%に増加しています。

タイでのみ、10人に1人(10%)が懸念を表明しています。これは先月から4ポイント上昇したことになります。

パンデミック発生から5年目を迎えるにあたり、イプソスはコロナウイルスに対する意識を追跡し続けます。

対象: 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

# 3%

が、**コロナウイルス(COVID-19)**は自国が直面している重要な問題の一つだと答えています。

**コロナウイルス(COVID-19)が最大の懸念事項となっている国 :**

なし

# 17. コロナウイルス (COVID-19)

対象: 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年1月

国	コロナウイルス(COVID-19)を懸念していると回答した割合	先月からの変化	12か月の変化
世界	3%	+1	-4
タイ	10%	+4	-2
マレーシア	7%	=	-22
シンガポール	7%	+4	-15
日本	5%	+1	-1
メキシコ	5%	+2	-5
インド	4%	-2	-12
オーストラリア	3%	=	-5
ベルギー	3%	+2	-1
インドネシア	3%	-1	-6
米国	3%	+1	-4
トルコ	3%	=	-1
ブラジル	3%	+2	=
英国	2%	=	-3
ペルー	2%	+1	-3
ポーランド	2%	=	-7
韓国	2%	=	-2
ドイツ	2%	+1	-4
フランス	2%	+1	=
コロンビア	1%	=	-1
チリ	1%	=	-1
イタリア	1%	=	-3
カナダ	1%	-2	-3
スペイン	1%	-1	-3
南アフリカ	1%	=	-1
イスラエル	1%	=	=
スウェーデン	1%	=	-1
アルゼンチン	1%	=	+1
ハンガリー	1%	-2	-2
オランダ	0%	-1	-3

# 経済への注目

# 自国の経済状況

イプソスの**世界が懸念していること調査**と並び、毎月実施されている**世界消費者信頼感調査**は、29カ国の一般消費者を対象に、国と個人のレベルにおける経済と金融について調査を実施しています。

以下のセクションでは、このデータの一部を用いて、今月の「世界が懸念していること調査」レポートの背景を説明しています。これは、国民が自国の現在の経済情勢をどのように評価しているかを示すものです。

詳細については、  
**Emilios.Louca@ipsos.com**  
までお問い合わせください。

# 現在の経済状況

29か国平均では、37%の人が自国の経済状況を「良い」と評価しています。

昨年同時期から最も上昇したのはアルゼンチンで、31ポイント増の38%となっています。これは同国がこれまでに見た12か月間の増加としては最大であり、また2017年11月(38%)以来の好景気スコアの最高値でもあります。

調査対象となった29か国のうち、昨年からの経済に対する肯定的な意識が最も低下したのはフランスで、-20ポイントの10%となっています。これはフランスのスコアが12か月間で低下した最大幅となります。

対象: 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。

出典: Ipsosグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

同時に、ドイツは4か月連続で過去最低の好景気スコアを記録し、現在は26%低下しています。

## 経済を最も懸念している上位国:

- 韓国(91%が「悪い」状態であると回答)
- フランス(90%)
- 日本(87%)
- トルコ(81%)

# 31pp

アルゼンチンの好景気スコアは今月31ポイント上昇し38%となっています。



# 現在の経済状況

対象: 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。

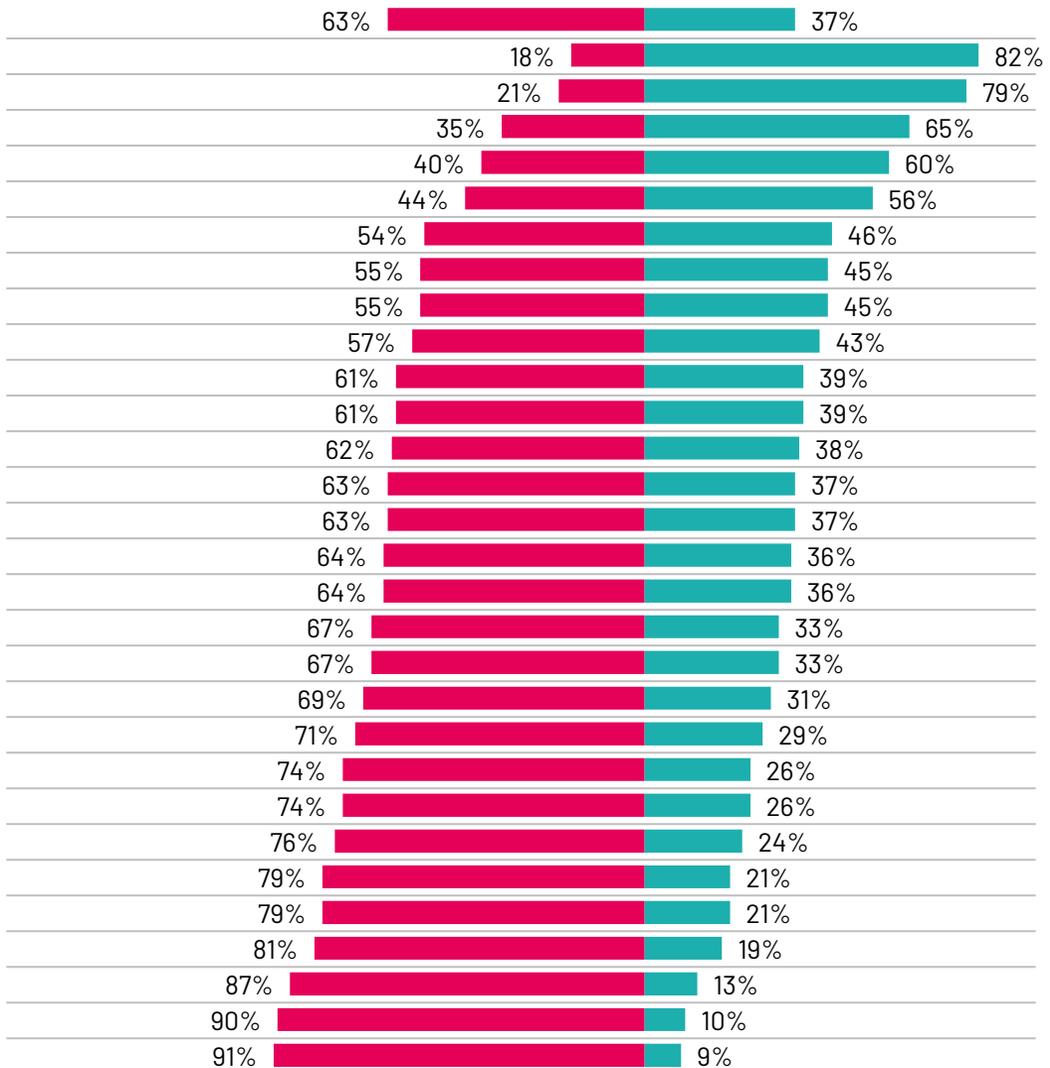
出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェブ: 2025年1月

## 国

世界
シンガポール
インド
マレーシア
オランダ
インドネシア
タイ
メキシコ
オーストラリア
ポーランド
スウェーデン
スペイン
米国
コロンビア
アルゼンチン
南アフリカ
ベルギー
イスラエル
ブラジル
チリ
イタリア
ドイツ
カナダ
英国
ペルー
ハンガリー
トルコ
日本
フランス
韓国

## Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



良い (Blue)      悪い (Red)

## 先月からの変化      12か月の変化

+1	-1
+2	+3
+3	=
+7	+14
=	+5
-10	-7
+1	-7
+1	-2
=	-3
+5	=
-4	+10
+2	+4
-3	=
+12	+8
+5	+31
+5	+11
+5	-9
+3	-7
-2	-12
+2	-2
+1	-4
-1	-14
-10	-6
+2	-11
+4	+5
+5	-3
-1	-3
+2	=
=	-20
-1	-5



# 現在の経済状況

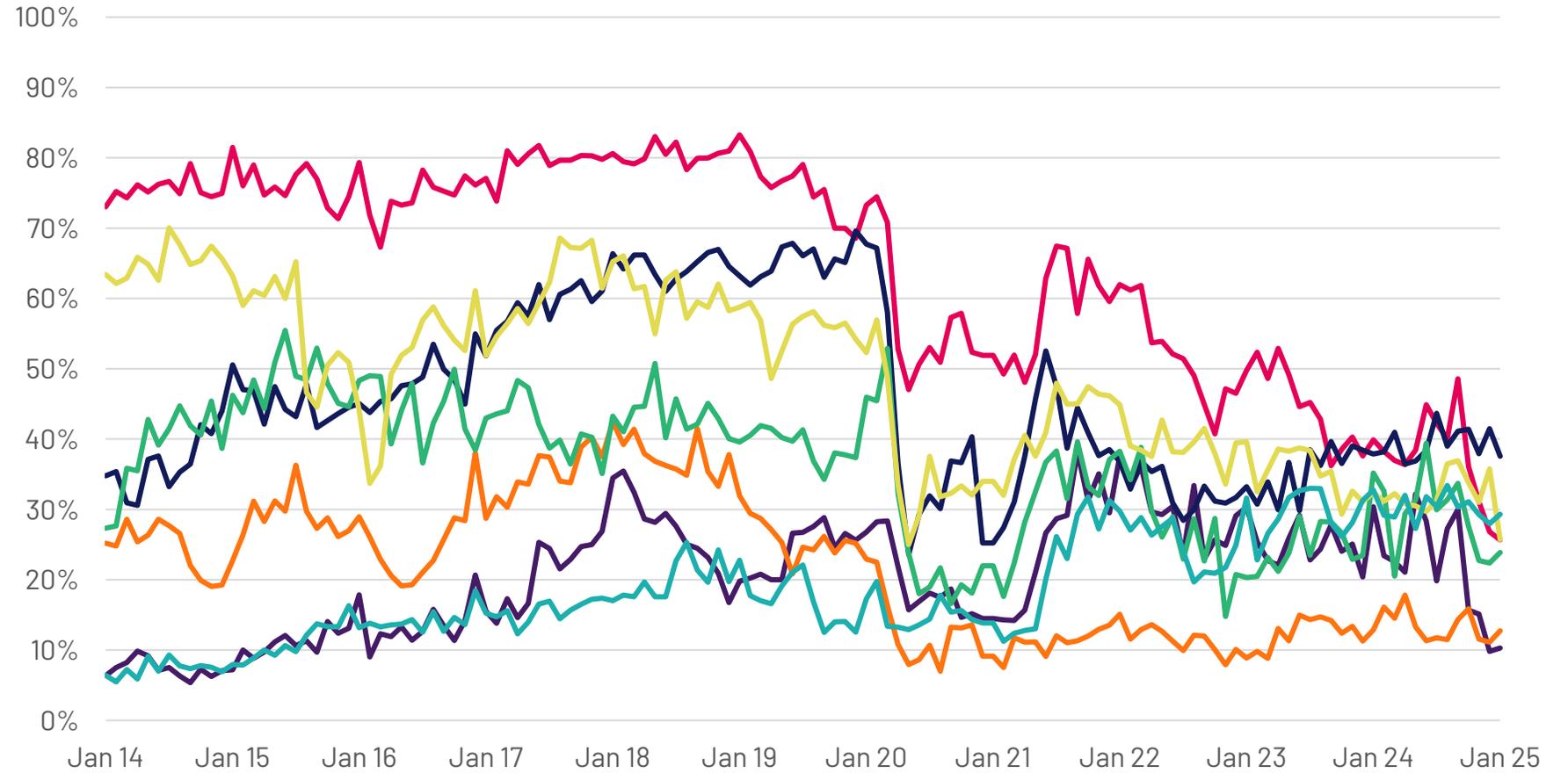
G7

%「とても良い」または「やや良い」

対象: 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。

出典: Ipsosグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



フランス

ドイツ

米国

日本

英国

カナダ

イタリア

# 現在の経済状況

## アルゼンチン

%「とても良い」または「やや良い」

アルゼンチンは先月から5ポイント上昇し、2017年11月以来最高の好景気スコア(38%)を記録しています。アルゼンチンのスコアは昨年の同時期より31ポイント上昇しており、12か月間で過去最大のスコア上昇となっています。

対象: 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: あなたの国の現在の経済状況をどのように説明しますか?



# 現在の経済状況

## カナダ

%「とても良い」または「やや良い」

カナダの好景気スコアは先月から10ポイント下落し、現在は過去最低スコア(2020年5月の25%)をわずかに1ポイント上回る水準となっています。

対象: 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: あなたの国の現在の経済状況をどのように説明しますか?



# 現在の経済状況

## フランス

%「とても良い」または「やや良い」

フランスは、調査対象となった29か国の中で前年比で最大の減少率を記録し、昨年の同時期と比べて20ポイント減少しています。これはフランスの好景気指数が12カ月間で経験した過去最大の低下となっています。

対象: 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



# 現在の経済状況

## ドイツ

%「とても良い」または「やや良い」

ドイツは先月から1ポイント下がり、4月連続で過去最低の好景気スコア(26%)を記録しています。

対象: 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



# 現在の経済状況

英国

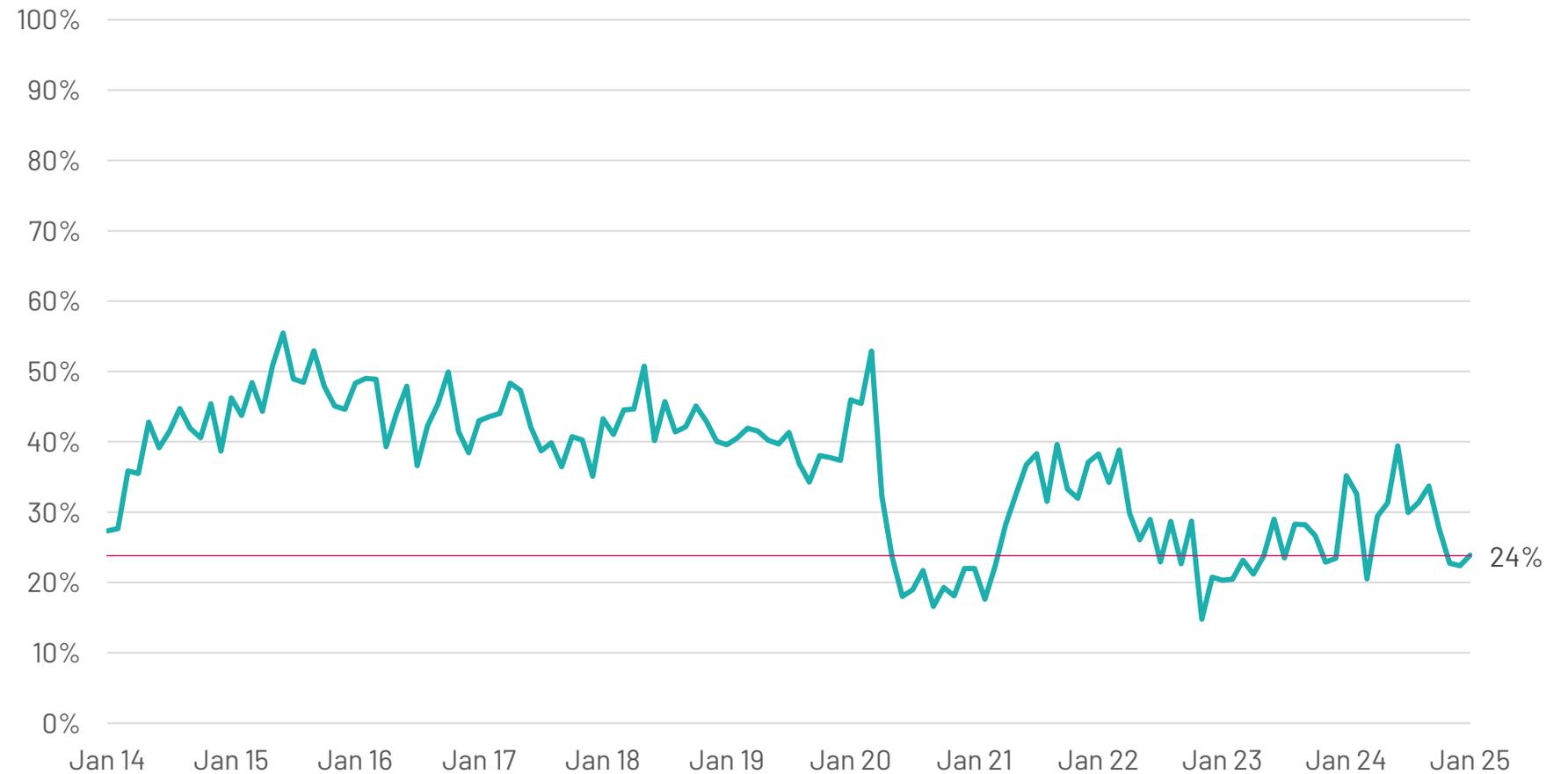
%「とても良い」または「やや良い」

英国のスコアは、2024年6月の選挙後の最高値から15ポイント下落しています。

対象: 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



# 現在の経済状況

## イタリア

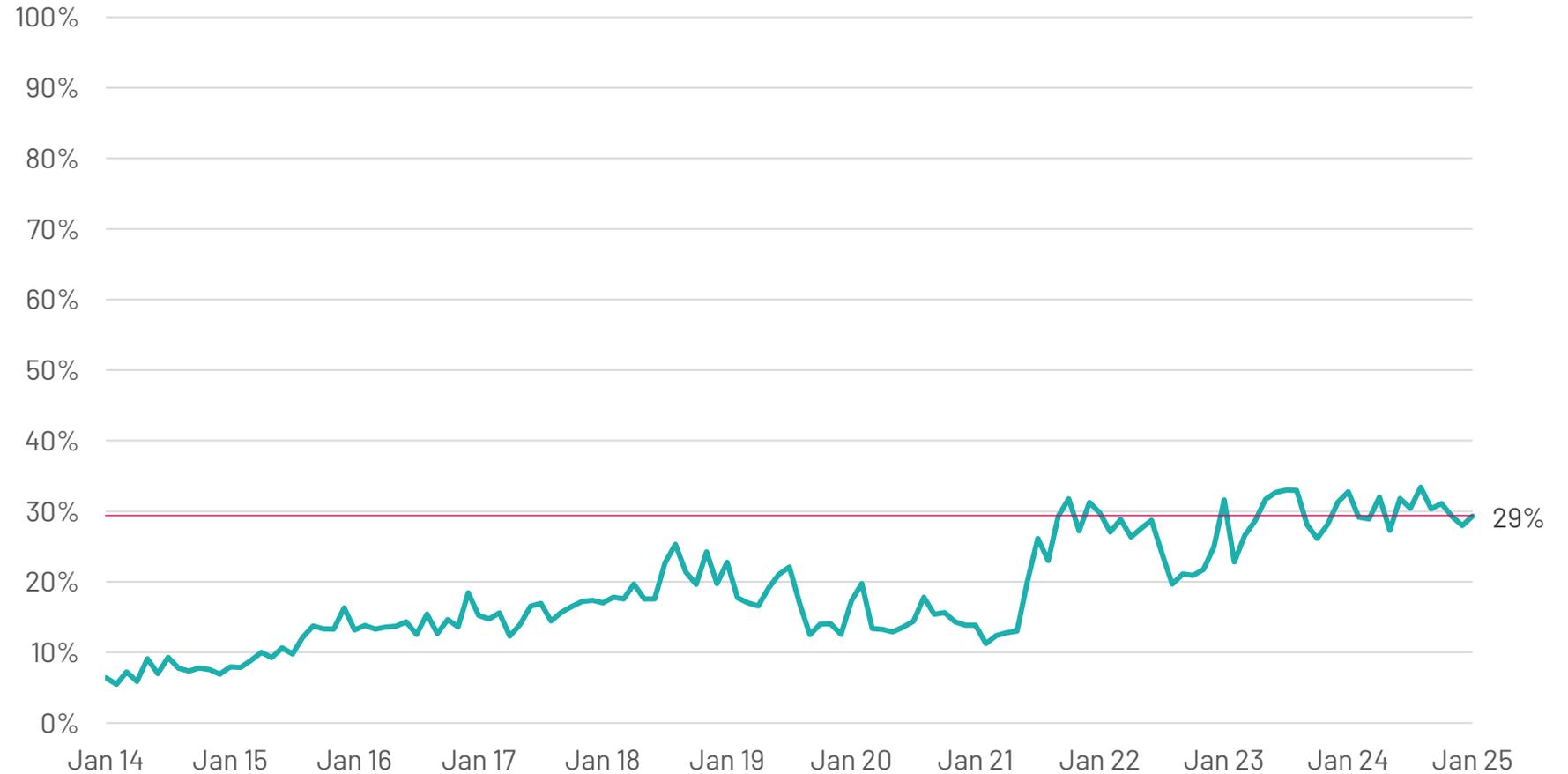
%「とても良い」または「やや良い」

イタリアは国別ランキングで下位3分の1に位置しているが、今月の好景気スコア29%は過去10年間のスコアと比較すると高く、過去最高スコア(33%)からわずか4ポイントしか離れていません。

対象: 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



# 現在の経済状況

日本

%「とても良い」または「やや良い」

日本経済に対する認識は、新型コロナウイルスの影響から回復できていません。2020年2月(22%)以来、同国の好景気スコアは20%を超えていません。

対象: 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



# 現在の経済状況

## マレーシア

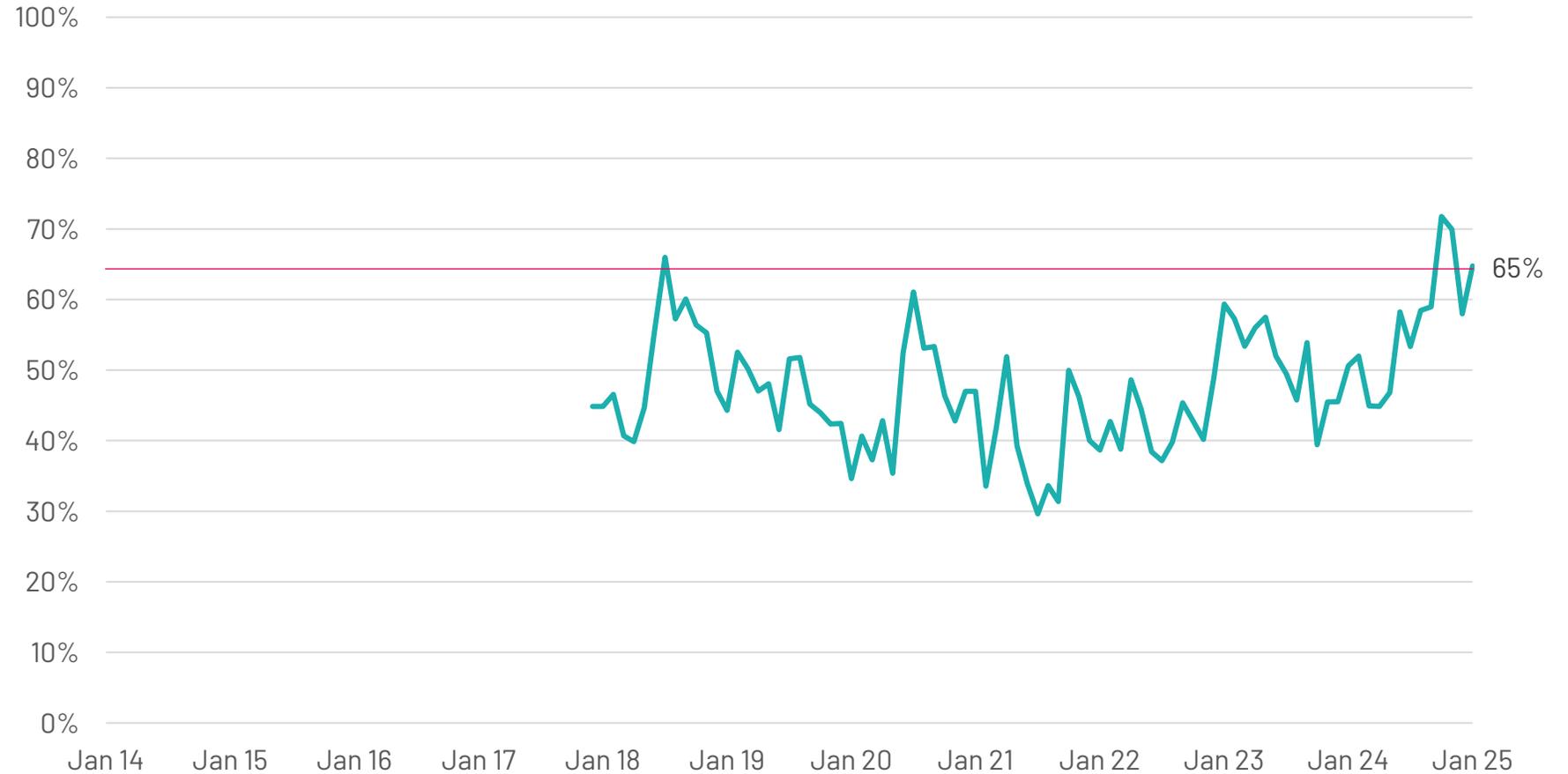
%「とても良い」または「やや良い」

マレーシアは、2024年1月から14ポイント上昇し、12か月間の良好な経済スコアの上昇率が2番目に高い結果となっています。

対象: 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



# 現在の経済状況

## メキシコ

%「とても良い」または「やや良い」

イプソスの調査対象となった29か国のうち、メキシコは新型コロナウイルス感染症のパンデミックによって引き起こされた悲観論から最も力強い回復を見せた国の一つです。現在、ラテンアメリカで最高の経済スコアを獲得しています。

対象: 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



# 現在の経済状況

## 韓国

%「とても良い」または「やや良い」

韓国は前月から1ポイント低下し、2017年3月以来最低の好景気スコア(7%)を記録しています。

対象: 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



# 現在の経済状況

## 米国

%「とても良い」または「やや良い」

2021年夏の一時的な急増を除き、米国はパンデミック前の経済信頼感を回復するのに苦労しています。パンデミック以前に米国の好景気スコアがこれほど低かったのは、2014年9月(36%)以来です。

対象: 参加29か国の16~74歳の24,767人の代表サンプル、2024年12月20日から2025年1月3日まで。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



# 調査手法

この29か国グローバルアドバイザー調査は、イプソスオンラインパネルシステムを通じて、2024年12月20日から2025年1月3日までの間に、カナダ、イスラエル、マレーシア、南アフリカ、トルコ、米国の18~74歳、インドネシアとタイの20~74歳、シンガポールの21~74歳、その他の国の16~74歳の24,767人を対象に実施されました。

「世界各国平均」は、調査が実施されたすべての国における平均結果を反映しています。各国の人口規模に合わせて調整されておらず、全体的な結果を示すことを意図したものではありません。

サンプルは、オーストラリア、ベルギー、ブラジル、カナダ、フランス、ドイツ、英国、イタリア、日本、スペイン、スウェーデン、米国の各国で約1,000人以上、アルゼンチン、チリ、コロンビア、ハンガリー、インドネシア、イスラエル、マレーシア、メキシコ、オランダ、ペルー、ポーランド、シンガポール、南アフリカ、韓国、タイ、トルコの各国で約500人以上で構成されています。

インドのサンプルは約2,200人で構成され、のうち約1,800人が対面でインタビューを受け、400人がオンラインでインタビューを受けました。

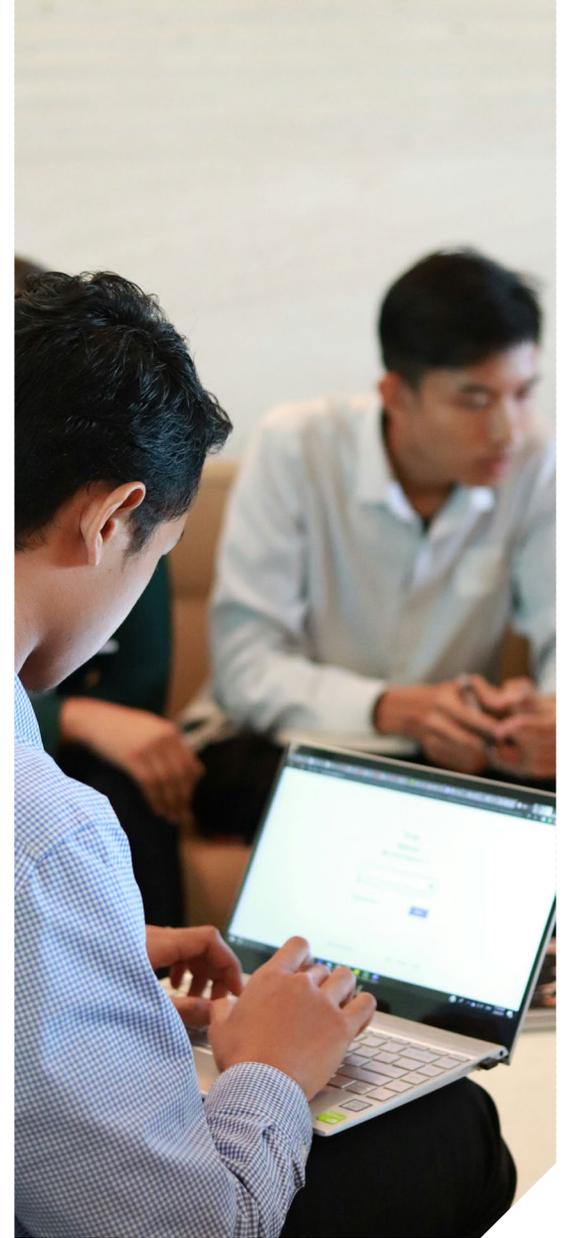
アルゼンチン、オーストラリア、ベルギー、カナダ、フランス、ドイツ、英国、ハンガリー、イタリア、日本、オランダ、ポーランド、韓国、スペイン、スウェーデン、米国のサンプルは、これらの国の75歳未満の一般成人人口の代表として考えることができます。

ブラジル、チリ、コロンビア、インド、インドネシア、マレーシア、メキシコ、ペルー、シンガポール、南アフリカ、タイ、トルコのサンプルは、一般人口よりも都市部に住み、教育水準が高く、裕福です。これらの市場の調査結果は、これらの人口のより「コネクテッド」なセグメントの見解を反映していると思われるべきです。インドのサンプルは、都市人口の大部分、つまり大都市圏の社会経済階級A、B、Cと、4つのゾーンすべてにわたる第1層から第3層の都市の階級を表しています。人口統計のバランスを取り、サンプルの構成が最新の国勢調査データに基づく成人人口の構成を反映するようにするために、重み付けが採用されています。

イプソスオンライン世論調査の精度は、信頼区間を使用して計算され、1,000件の世論調査では $\pm 3.5$ パーセントポイント、500件の世論調査では $\pm 5.0$ パーセントポイントの精度となります。イプソスによる信頼区間の使用に関する詳細については、イプソスのWebサイトをご覧ください。

結果の合計が100にならない場合、または「差」が実際より $\pm 1$ 多い/少ないように見える場合は、四捨五入、複数の回答、または「わからない」または未回答の回答の除外が原因である可能性があります。

これらの調査結果の公表は現地の規則および規制に従います。



# THANK YOU

**CONTACT:**

[Teodros.Gebrekal@ipsos.com](mailto:Teodros.Gebrekal@ipsos.com)

**VISIT:**

[ipsos.com](https://ipsos.com)